

刊行にあたって 3

第Ⅰ章 咀嚼・嚥下関連器官の構造とはたらき 北村清一郎

1. 口腔 8
2. 舌 14
3. 鼻腔 16
4. 口峽と咽頭 18
5. 食道 22
6. 喉頭 24
7. 唾液腺 26
8. 呼吸器官と呼吸機能 28
9. 呼吸器官と発声・構音機能 30
10. 咀嚼・嚥下の過程と関連筋 32
11. 咀嚼・嚥下に関連する神経 34
12. 頭関節・頸椎の動きにかかわる筋 36
引用文献 42

第Ⅱ章 咀嚼・嚥下器官の動きと筋・嚥下

1. 咀嚼と筋（北村清一郎） 44
2. 舌の動きと筋（伊藤直樹） 50
3. 咀嚼・食塊形成時の舌の動き（山口康介） 54
4. 鼻咽腔閉鎖機能と筋（北村清一郎） 56
Column 1：stage II 移送後の食塊の下咽頭への送り込み（北村清一郎） 60
Column 2：口峽閉鎖・鼻呼吸と口呼吸（北村清一郎） 61
5. 舌・舌骨・喉頭複合体の動きと嚥下（北村清一郎） 62
6. 気道防御と嚥下（北村清一郎） 66
7. 中咽頭と下咽頭での動きと嚥下（道脇幸博） 68
8. 加齢に伴う咀嚼・嚥下関連器官の変化（道脇幸博） 72
Column 3：梨状陥凹と食道入口部（北村清一郎） 75
9. 摂食・嚥下器官の動きと誤嚥（道脇幸博） 76
Column 4：摂食・嚥下器官の動きを経時的に見る（北村清一郎） 82
Column 5：鼻汁や唾液、痰の咽頭貯留と食塊の咽頭残留（山口康介） 84
引用ならびに参考文献 85

第Ⅲ章 口腔機能の改善はなぜ嚥下機能の改善に繋がるのか 北村清一郎

1. 口腔機能と嚥下 88
2. 口唇閉鎖能と表情筋 90

Column 6：咽頭収縮筋と嚥下圧、および咽頭収縮筋の運動と口唇閉鎖 92
3. 口腔を動かす・刺激することの意義 94
4. 舌圧（舌口蓋接触圧）のもつ意義 96
5. 下顎の固定、舌骨・喉頭の挙上の意義 98
6. 頭部の姿勢の意義 100
引用文献 102

第Ⅳ章 摂食・嚥下障害への対応

1. 口腔ケア（衛藤恵美） 104
Column 7：口腔ケア方法の違いが肺炎発症率に及ぼす変化 111
2. 口唇・頬の運動訓練（児玉将人） 112
3. 下顎の運動訓練（久多良木 茜） 116
4. 鼻咽腔閉鎖訓練（御手洗達也） 120
5. 舌の運動訓練（児玉将人） 122
6. 舌骨・喉頭の挙上訓練（久多良木 茜） 126
7. 呼吸訓練（児玉将人） 130
8. 舌根と咽頭収縮筋の機能訓練（久多良木 茜・児玉将人） 134
9. 頭部・頸部の姿勢と嚥下（御手洗達也） 136
10. 頭部・頸部の姿勢による咽頭部内視鏡画像の変化（山口康介） 140
11. 嚥下反射誘発法（御手洗達也） 143
12. 発音と嚥下訓練（御手洗達也） 144
13. 歯科補綴学的な対応（小山浩一郎） 146

第Ⅴ章 フレイルと口腔機能 森 淳一

フレイルと口腔機能 152

第Ⅵ章 口腔リハビリにおける姿勢の調整と筋のリラクゼーション 金尾顕郎

口腔リハビリにおける姿勢の調整と筋のリラクゼーション 158

第Ⅶ章 “黒岩恭子の口腔リハビリ”の3つの柱

1. 黒岩恭子先生の「食べられる口の作り方」（小山浩一郎） 174
2. バランスボールを用いた筋のリラクゼーション
一歯科領域への応用（黒岩恭子） 178
3. 舌を中心とする口腔関連構造のマッサージ・ストレッチ（黒岩恭子） 187
4. 咽頭ケア（黒岩恭子） 212

索引 230